

平成18年10月12日

超高速船安全対策WGの設置について

1. 超高速船の安全対策については、国土交通審議官をヘッドとする「超高速船に関する安全対策検討委員会」を設置し、本年4月14日の第1回会合以降、「衝突を回避するための対策」及び「衝突した場合の被害を低減するための対策」について、ハード及びソフトの両面から検討を行い、8月1日に「中間とりまとめ」を行った。
2. この「中間とりまとめ」においては、その着実な推進を図るため、実務者で構成されるワーキンググループを必要に応じて開催し、具体的な検討を行っていくこととされたところである。
3. このため、以下のとおりWGを設置することとする。

超高速船安全対策WG

(事務局：運航労務課)

1. 「中間とりまとめ」における緊急対策の実施状況に係るフォローアップ
2. 「中間とりまとめ」における中期的な技術開発メニューに係る具体的な検討
3. 「トッピー4」の事故原因等に応じた「中間とりまとめ」の見直し

(メンバー) 別紙のとおり

超高速船安全対策 WGメンバー

[水産庁]

小田 卷 実 増殖推進部漁場資源課長
成子 隆英 資源管理部遠洋課長

[学識経験者]

加藤 秀弘 東京海洋大学海洋環境学科教授（鯨類海産哺乳類専攻）
田村 兼吉 独立行政法人海上技術安全研究所 運航・システム部門部門長

[メーカー]

田中 一郎 株式会社川崎造船技術本部基本設計部基本計画第三グループ長
寺田 稔 株式会社川崎造船技術本部基本設計部電気計画グループ長
佐久間 康輔 川重ジェイ・ピー・エス株式会社営業部長

[運航事業者]

藤間 修 東海汽船株式会社業務部担当部長
古川原 芳明 佐渡汽船株式会社運航管理グループマネージャー(部長・運航管理者)

[海上保安庁]

尾関 良夫 交通部安全課長

[海難審判庁]

河田 守弘 高等海難審判庁総務課長

[海事局]

坂下 広朗 海事局参事官
永松 健次 同 外航課長
大塚 洋 同 内航課長
安藤 昇 同 安全基準課長
澤山 健一 同 検査測度課長
持永 秀毅 同 運航労務課長

<注> メンバーは必要に応じて追加する

■ 超高速船に関する安全対策検討委員会（中間とりまとめ）

1. 検討の背景

4月9日に発生した「トッピー4」の事故を受け、北側大臣の指示に基づき、国土交通審議官をヘッドとして、省内の関係局長等や関係省庁（水産庁）、学識経験者、超高速船のメーカー、運航事業者の各委員からなる標記委員会を設置し、事故防止に向けた方策について幅広く検討することとした。

2. これまでの検討状況

- ・本委員会設置後、3回の会合が開催され、「衝突を回避するための対策」及び「衝突した場合の被害を低減するための対策」について、ハード面及びソフト面から検討が行われた。
- ・その結果、5月24日の第3回会合において、「緊急対策」及び「中期的な技術開発メニュー」が提言され、7月中を中途に中間とりまとめを行うこととなった。

3. 中間とりまとめの概要

8月1日の第4回会合において、以下を内容とする中間とりまとめが行われた。

当面の緊急対策

- ① 障害物の情報伝達・交換に向けた協力体制の構築
⇒引き続き体制を充実・強化
- ② シートベルト着用の周知徹底及び運送約款の改正
(乗客の禁止事項への位置づけ)
⇒運送約款の改正措置済み、乗客への周知徹底を継続
- ③ 減速航行及び基準航路の変更
⇒要注意海域の範囲の再検討を通じて随時見直し
- ④ 船内への衝撃緩衝材等の取り付け
⇒概ね措置済み、引き続き充実・強化

中期的な技術開発メニュー

- ① より衝撃吸収効果の高い座席・シートベルトの開発
⇒衝突時の衝撃力解析を実施済み、20年3月を目的に
技術基準及び試験基準を策定
- ② アンダーウォータースピーカーの改良
⇒鯨類の生態調査に着手済み、19年6月を目的に発出
音波(周波数)、音量等を改良
- ③ アクティブソナーの開発
⇒機器の改良に着手済み、19年6月を目的に新型を開発
- ④ 鯨類ハザードマップの作成
⇒18年8月を目的に分布図作成、以降事業者毎に詳細化

4. 今後の予定

中期的な技術開発メニュー等については、実務者レベルのWGを設置し、具体的な検討を進める。